

人と地域とつながり発展する水稲と酪農の複合経営 ～仲間づくりと農都交流による販路拡大～

浅野 克幸（飯豊町）

1 受賞者の概要

平成13年に就農し、水稲を中心に規模拡大。現在は水稲14ha、稲WCS10ha（うち受託5ha）、乳用牛12頭の複合経営に加え、冬期間はもち加工を行っている。父の代から開始した米の直接販売に更に力を入れ、首都圏での販売活動や消費者との交流により販路を開拓している。自家産米を活用したもち加工にも取り組んでいる。

堆肥を水田に還元し稲わらを飼料として活用する循環型農業を実践し、水稲の全面積で特別栽培に取り組んでいる。水稲の規模拡大と稲WCSの取組みにより粗飼料を全量自給し飼料費を削減するとともに、余剰を近隣の畜産農家に販売し、地域と連携した循環型農業を実践している。



2 特色ある活動

(1) 米の直接販売の取組み

父の代に近隣農家と設立した「飯豊米ネットワーク」、「有限会社銀波」等の組織と連携した直接販売に加え、「山形県飯豊町アンテナショップIIDE」（東京都杉並区高円寺）等でのイベント参加や消費者との交流を通じて新たな顧客を増やしている。

(2) 省力・低コストの酪農経営

手間のかかる子牛の自家育成は行わず、乳用牛を全て外部から導入することで、水稲部門と両立できる省力的な酪農経営を実践。自家産稲わらと稲WCSで粗飼料を全量自給し、飼料費を削減している。稲WCSを通年で給与し乳質が安定してきたことから、周囲の酪農家にも稲WCSの利用が広がった。

(3) 都市と農村との交流の推進

JA山形おきたま飯豊地区青年部の活動に積極的に参加し、東京都内の小学校での「稲作体験出前授業」や農業体験の受入を行い、都市と農村との双方向の交流を推進している。出前授業は現在8校で実施、農業体験では2校が来町している。出前授業をきっかけに、学校給食への米の納入やアンテナショップのオープン等、交流や販路も拡大している。

(4) もち加工による6次産業化の取組み

平成27年に加工施設を整備し、約20年前から取り組んでいた白もち加工を拡大するとともに、菓子製造業許可を取得し、地域の伝統食である「みそもち」等も商品化。販売期間の延長やパッケージ改善にも取り組んだ。

3 今後の発展方向

従業員を自身の右腕として育成し、可能な限り農地の規模拡大を図るとともに、父母にも定期的な休日を与えられるよう働き方を工夫したいと考えている。また、浅野氏も従業員も福祉関係の仕事の経験者であり、「農福連携」への挑戦等、自らの経営発展と地域への貢献を進めていきたいと考えている。